

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の学力向上と希望進路を保障する教育課程を編成する。 ②希望進路保障のための授業改善に取り組む。	①授業時間数確保と新教育課程のより有効な活用・改善を推進する。 ②本校生徒に身につけさせたい力についてさらに教員間で共通理解を深め、授業改善を進める。 ②家庭学習を定着させ、主体的に学習に向かう姿勢を育成する	①授業時間数確保と新教育課程の適切な実施、改善の推進。 ②授業改善に関する研修会、教科での授業研究、授業見学、学校全体での研究授業等を1年間全体で関連付けて適切に実施する。 ②長期休業中の自宅学習用の課題提供、補習の実施など、生徒の自立的な学習を促す方策を行う。	①授業時間数を確保できたか。 ①新教育課程に対する生徒の満足度(「生徒による授業評価」における満足度80%維持) ②生徒がより主体的に家庭学習に取り組み、その結果普段の授業にも、いい影響が及ぼされたか。	①授業時間数は確保できた。 ②生徒による授業評価では、ほぼすべての項目で満足度80%を維持することが出来た。	①学校行事の重要性を鑑み、授業時間数とのバランス調整を今後も行う。 ②教員の授業改善への取り組みが、生徒の主体的な家庭学習への取り組みへとつながるように、引き続き課題とする。	・授業改善の取組みを校内に開いて意欲的に取り組んでいる。 ・英検全員受検で意欲と実力の向上に努めている。 ・先生の指導より子どもの学びへ焦点が移っている。今後に期待する。 ・1人1台端末の活用方法は評価できる。家庭学習にも繋げて欲しい。	①成績評価シートにより学校全体に観点別評価が定着し指導と評価の一体化が進んだ。行事等を見通して短縮授業等を計画的に実施したい。 ②授業改善は進捗しつつある。更に生徒の家庭学習の充実を目指す取組みにフェーズを移行させる必要がある。	①観点別評価の運用を引続き検証していき改善点を発見していく。前年度の授業時間の記録を基に月間行事に反映させていく。 ②課題提示・課題総量・提出度合確認・課題評価・学習時間数調査等、生徒の意欲を下支えする家庭学習維持の方策を見出す。
2 生徒指導・支援	①生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせる。 ②生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図る。 ③本校のSDGs(環境問題)の体制づくりに取り組む。	①学校行事や生徒会活動、部活動における目標を確認しながら諸活動を支援する。 ②生徒や家庭環境の多様性や社会の急激な変化を踏まえた支援体制の推進を図り、併設されている鎌倉支援学校の巡回指導も含め、支援や共生を推進する。	①生徒会関連活動の活動状況を各組織で定期的に共有し、課題の改善に取り組ませる。 ②教育相談を柱とし、外部機関との柔軟な連携を進め、学校内外における共通理解のある支援体制の確立を図る。	①各学校行事、生徒会活動、部活動において、目標の達成状況や課題について十分な振り返りができているか。 ②教育相談の成果を踏まえ生徒や保護者に対する適切な対応ができたか。	①各行事等の活動では学年を超えた協働の姿勢がみられ。振り返りもおおむね実施できた。 ②SC・SSWと協働し、サポートドック等のアンケートを活用して、生徒の困り感を抽出し、対応することが出来た。	①行事の在り方や部活動の活性化については課題をもとに継続した研究や協議の場が必要である。 ②教育相談コーディネーターや養護教諭の負担が大きく、SC・SSWの来校日は1日潰れてしまうので、生徒対応方法を検討していくことが今後の課題である。	・高校生の心の課題へ支援の手を差し伸べ、平穏な生活を送れるよう努めている。 ・多様な人々との交流を大切にしている。鎌倉分教室とのコラボ行事が豊富で幅が広い。 ・登下校のマナーが良い。地域住民と自然なコミュニケーションが生まれている。	①学校行事に生徒の自立的な活動が見えられた。また、文化祭では定時運営が実現できた。 ②初年度のサポートドックの運用を試行錯誤しながらも効果的に行えた。教育相談内容の共有も確実に行えた。外部機関との連携も円滑だった。	①行事における生徒の決定権をより広げ裁量権を実感できるように段階的に進め、生徒自治の実現を目指す。 ②コーディネーター・SC・SSWとの協働を維持し関係職員との情報共有を重ね、生徒支援機能を充実を保つ。
3 進路指導・支援	①生徒の希望進路を保障するマネジメントに取り組む。 ②生徒の主体的な進路選択を支援できる進路指導体制づくりに取り組む。	広い視野を持ち、「人生100年時代」を見据えて、積極的な進路選択、あきらめない進路選択を自ら考えられるよう、授業だけでなく、さまざまな機会を通して考えさせていく。	①総合的な探究の時間で様々な観点で考えさせる。 ②ガイダンスなどの時間で、多くの人と触れ合い、情報を見極める力をつけていく。	①探究学習を進めていく中で、多様な見方で学習を進めることができたか。 ②ガイダンスなどの情報を日々の学習に活かし、自らの進路決定に活かすことができたか。	①グループ発表、個人発表など、さまざまな形で発表することにより、各生徒が新たな気づきを得ることができた。 ②大学体験や相談会等を通して、多くの情報から自分に必要なものは何かを考えるようになった。	①できる限り多くの生徒が大勢の前で発表する機会を作り出す工夫、生徒同士の相互評価の機会を作り出す。 ①得た情報に単純に左右されず、自分の状況を俯瞰で見る、冷静に分析する力の養成が必要である。	・受験型で総合選抜の比率が増加している。探究の時間が進路開拓意欲の向上に繋がるよう期待する。 ・一人ひとりの様々な進路に寄り添った出願指導に感謝している。 ・キャリア形成の具体を定め向上を図っている。	①各学年毎のテーマで探究する方法論は定まった。生徒自身がより深掘りを目指す機運を構築させていきたい。 ②明確な志望を確定し諦めずに追求し続ける意欲を構築していきたい。	①興味、関心を核に新事実や発見を積重ねさせるテーマ研究を追求させる。 ②早い時期から上級学校に触れ、且つ先輩の進路決定プロセスをモデルにし、自己開拓意欲を明確にさせていく。
4 地域等との協働	地域との共同連携による開かれた学校づくりを推進する。	ホームページや学校説明会などの内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	最新の必要情報を提供できるようにホームページや学校説明会をアンケート結果などに基づき改善していく。	ホームページなどで適切に情報発信ができたか。また、学校説明会などの広報活動により本校の教育活動への理解を高めることができたか。	ホームページやインスタグラムを用いて様々な情報提供ができた。 学校説明会などの行事では、生徒ボランティアの力で、中学生に向けた親近感のあるプレゼンテーションができた。	インタグラムにおける情報発信がより充実するようにさらに情報収集と協力体制の拡充を目指す。 夏季休業中の学校説明会は、公私合同学校説明会との日程の調整に難があるので、今後は他の時期も考えなくてはならない。	・高校生の地域イベント参加に感謝している。 ・文化祭に招待頂き有り難かった。 ・分教室との交流で支援教育への関心が高まっていると感じる。 ・HPが充実してきた。 ・学校評価の更新必要。	・学校案内はシステム化され、より円滑に実施できた。学校説明会は中学校の休業期間と中地区と学校独自との調整を必要とした。生徒の説明は引き続き好評である。 ・HPの即時性・機能性は上がった。	・可能な限り多くの制約を調整し最適な開催日を追求する。 ・金井地区及び横浜市の行事の出演要請を機会とし生徒による地域連携をさらに進める。 ・HPの更新をより高め情報発信の要としていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	<p>①安全・安心な学校づくりを推進する。</p> <p>②開校50周年に向けて準備を行う。</p> <p>③教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。</p>	<p>①耐震補強工事の安全進行と、終了後の体育施設の完全復旧を実現する。</p> <p>①耐震工事中の学習環境の整備を推進する。</p> <p>①防災用品の充実を図ると共に、生徒の防災意識を高める。</p> <p>②周年行事に向けて、具体的な準備を始める。</p>	<p>①関係各所と調整を実施し、安全安心な環境を整える。</p> <p>①防災用品を確認し、計画的に物品を購入する。DIGや防災訓練を実施し、地域の特性を生徒に確認させる。</p> <p>②50周年行事に向けての資料を整理する。</p>	<p>①工事中、教育活動に支障がないように配慮ができたか。</p> <p>①防災用品の整備、充実ができたか。生徒の防災意識を高めることができたか。</p> <p>②資料等の整理を実施し、周年行事に何を行うのか検討ができたか。</p>	<p>①関係各所と調整を行い、学習環境を整えることができた。</p> <p>①災害時の行動や避難経路の確認を行った。今年度は校庭への避難訓練を数年ぶりに実施することができた。</p> <p>②50周年に向けて、実行委員会が発足し、今後の流れを確認することができた。</p>	<p>①今後の教室配置についてはクラス数等を考え、引き続き検討が必要である。</p> <p>①防災用品の備蓄場所や更新について随時適切に実施していく。</p> <p>②50周年にむけて、具体的な内容について検討していく。</p>	<p>・耐震終了したが液状化や地盤沈下が心配。</p> <p>・卒業式の号泣の様子から自分達の式だったと分かる良い式だった。</p> <p>・昨年度より倍率が下がったが、志願者の出足は好調。強い志望者が集まったと考える。</p> <p>・50周年に向けて協調して準備を進めていきたい。</p>	<p>①耐震工事による教育活動への影響は軽微に終わった。体育施設の復旧は途上。</p> <p>①生徒個々の防災用品として整備されつつある。また、避難訓練では迅速に避難できた。</p> <p>②周年行事が動き始め、課題が山積された。</p>	<p>①県や事務と連携し速やかに完全復旧を実現する。</p> <p>①防災用品の点検とメンテナンスを行う。また、学年毎の保存場所の集約を目指す。</p> <p>②5つ部会毎に詳細な事業案を作成し、常任委員会で検討を重ね、総会で決議する。</p>

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①基礎的な知識・技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学習に取り組む意欲を高めるような学習活動の実践を目指す。 ②生徒の学力向上と希望進路保障のために授業改善を推進し、カリキュラム・マネジメントに取り組む。								
2 生徒指導・支援	①生徒の主体的な取り組みを通じて学校生活の充実を目指す姿勢を育む。 ②生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図る。 ③日常生活や学校活動の意義を深く理解し、自分自身の成長を常に求めようと努力する姿勢を育む。								
3 進路指導・支援	①生徒が主体的に考え行動し、自身の将来を開拓していく力を育む ②探究活動を通じて協働することを学び、社会への理解を深め、予測不能な社会で生き抜いていく力を身に付ける支援をする ③学習活動を通し、生涯に渡って学び続ける基礎力を育む								
4 地域等との協働	①地域や保護者との連携を推進し、開かれた学校づくりを進める。 ②中学生やその保護者に本校の魅力を効果的に伝え、本校を志願する生徒を増やす。 ③近隣地域との交流の意義について深く理解させ、これまで以上に地域との連携行事を増やす。								
5 学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりを推進する。 ②50周年の周年行事を通じて、地域や卒業生の力を本校の教育活動に最大限に活用していく。 ③職場の民主化・平準化の充実を目指し、様々な方面の調整を進める								